

②14 **南朝** (または**南梁**) **様式**～柔和で丸みがある。[図表P.55]

\*法隆寺15 **百濟** 観音像

\*16 **広隆** 寺半跏思惟像(頭上にお皿)

\*17 **中宮** 寺半跏思惟像(頭上に二玉)

木像

### 3. 工芸品・絵画 [図表P.53]

\*法隆寺18 **玉虫厨子** …台座の部分(絵が描いてある)を「須弥座」、上部の仏像を納める部分を「宮殿」とよぶ。かつては数千枚の玉虫の羽が貼られていたことから名がついた。

\*玉虫厨子須弥座絵…仏教の中心・須弥山や釈迦のエピソード(捨身飼虎、施身聞偈)を描く。

\*中宮寺19 **天寿国繡帳** …聖徳太子来世の姿を刺繡したもので現存する最古の刺繡。

### 4. 学問・技術 [図表P.45③、P.50①の下部「推古朝の政治と文化」]

\*20 **三経義疏** …聖徳太子も関与したという、法華経・維摩経・勝鬘経の注釈書。

\*絵の具・紙・墨の製法伝来…高句麗の僧21 **曇徴** により伝えられる。

\*暦の伝来…百濟の僧22 **観勒** により伝えられる。

\*歴史書の編纂…聖徳太子・蘇我馬子共同編集による『23 **天皇記**』・『24 **国記**』  
(蘇我氏の滅亡とともにそのほとんどを焼失したという)

◇ 図表 P.53「中宮寺天寿国繡帳」の説明文を読むと、この刺繡は死んで天寿国(=極楽、死後の安楽な世界)へと旅だった〇〇〇〇を、その〇〇〇〇の妃が、死後の世界にいる夫の様子を見てみたいとつくらせた刺繡であることがわかります。

◇ 図表 P.53上半分にある「玉虫厨子」の説明文を読むと、「厨子」とは何か、またその側面に描かれた釈迦のよく知られたエピソードが絵画として描かれていることがわかります。